

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①基礎的な知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成を目標とした授業実践を行う。</p> <p>②生徒の国際的視野を一層広げ、グローバル人材を育成するため体験活動を活用した実践的な国際教育を充実させる。</p> <p>③生徒主体の学校行事や生徒会活動を通して、豊かで幅広い人間力を養う。</p>	<p>①校内のICT機器と生徒のタブレット等を円滑に利用し、学習コンテンツを通じて、生徒の協働学習や主体的に学習に臨む姿の育成に活かしていく。学習支援アプリ等を有効活用し個別の学習状況に合わせた教育を実践する。</p> <p>②-1 グローバル教育研究推進校として、「グローバル人材に求められる資質・能力」を育成する。</p> <p>②-2 外国語教育の充実や様々なやり方による姉妹校交流等、積極的に国際社会へ参画する力を育成する。</p> <p>③-1 生徒主体の学校行事となるよう支援する。</p> <p>③-2 活動の成果を昇降口モニターやホームページ等で共有し、生徒相互・保護者・地域の理解につなげる。</p>	<p>①学習支援アプリ「ロイロノート スクール」などを活用し、主体的で協働的な学びや個別の学習状況に合わせた学びを実践し、実績をつくる。職員対象の研修会でこれらの実績を確認しスキルアップに資する。</p> <p>②-1 全教科で取り組む「校内研究授業テーマ」を設定し、研究テーマを踏まえた授業改善と公開研究授業を行う。</p> <p>②-2 姉妹校等との直接交流の再開を図りながら、引き続きオンライン交流により多くの生徒が国際交流に関わる機会をつくる。</p> <p>②-2 日常的に「話す」活動を積極的に取り入れ、スピーチコンテストの質的向上を図る。</p> <p>②-2 2年生の発表を1年生にも視聴する機会を設け、次年度の発表の内容の向上を図る。</p> <p>③-1 行事の実施において、生徒が主体的に運営に携わりPDCAサイクルを回すことができるよう、委員会生徒を指導する。</p> <p>③-2 多くの教職員がHPの更新を行い、学校行事等をホームページや動画配信を利用して紹介する。</p>	<p>①学習アプリ等を利用し主体的で協働的な授業実践、学習状況に合わせた学びが行われたか。また、研修会でその内容が確認されたか。</p> <p>②-1 「校内授業研究テーマ」を設定し、教科横断的に授業改善に取り組むことができたか。</p> <p>②-2 直接交流やオンライン交流により国際理解教育がより充実したものになったか。</p> <p>②-2 直接交流やオンライン交流に参加した生徒の満足度や達成感が向上したか。</p> <p>②-2 スピーチ・プレゼンテーションコンテストを通じて英語の力が向上したと感じた生徒が増加したか。</p> <p>③-1 生徒が主体的に行事運営を行うことができるよう指導をできたか。</p> <p>③-2 本校のHPのアクセス数が増加したか。</p>					
2 生徒指導・支援	<p>①生徒一人ひとりに寄り添い、生徒理解にたった支援、相談体制を充実させる。</p> <p>②部活動の活性化を通して連帯感や責任感の涵養を図る。</p>	<p>①SC, SM, SSW等の専門機関と連携した組織的な取組を推進し、生徒理解に基づく生徒指導、生徒支援により、生徒の自律心や人権意識の向上につなげる。</p> <p>②活動の成果を生徒相互に広く認知させることで自己の成長や他者の活動を認め、学校生活の充実感を実感させる。</p>	<p>①-1 生徒向けの講演会や集会を通じて、生徒の自立心や人権意識を高める取り組みを実施する。</p> <p>①-2 生徒の個別の課題の正確な把握、職員間の情報共有を踏まえた、支援策をたてる。</p> <p>②部活動の大会結果報告や活動実績等を、昇降口モニターにて共有し、応援やコミュニケーションに繋げさせる。</p>	<p>①-1 本校生徒の課題に対応した効果的な取り組みが実施できたか。</p> <p>①-2 適切な支援策の検討と実施がなされたか。</p> <p>②-1 生徒相互の活動の様子を効果的に発信及び客観的に把握することができたか。</p> <p>②-2 目標の観点から適切な情報発信が行えたか。</p>					
3 進路指導・支援	<p>①社会との関わりや自己の在り方について、主体的に考える態度の涵養を図り、自己実現につながる進路選択となるような手立てを講ずる。</p>	<p>①生徒の「探究的な学び」のスキルを高める。</p> <p>②教職員全体の進路支援スキルを高める。</p> <p>②グループ業務の円滑化、効率化をはかる。</p>	<p>①「総合的な探究の時間」において、生徒に探究的な学びのプロセスを周知させ教科を超えた学びのスキルとして活用させる。</p> <p>②外部機関を活用し、進路グループメンバーを中心として、学年会等において、教職員向けの研修を実施する。</p> <p>③グループ業務分担のチーム化を図り、メンバー相互の連絡調整や業務管理を円滑にする。</p>	<p>①「総合的な探究の時間」における各学年で設定した目標が十分達成できたか。</p> <p>②外部機関とよく連携し、各学年生徒の発達段階に応じた進路指導が計画通り実施できたか。</p> <p>③業務分担のチーム化により、業務の円滑化、効率化が図れたか。</p>					

4	地域等との協働	<p>①家庭、地域の教育力を活用し地域との交流活動を通し、生徒、保護者、地域に信頼される開かれた学校づくりをめざす。</p>	<p>①-1 学校運営協議会の機能を活用し、生徒と地域との交流活動を推進する。 ①-2 ホームページ、twitter等の広報媒体を充実させる。</p>	<p>①-1 対面での会議を開催し、交流事業等の具体的実現を図る。 ①-2 ホームページの更新を増やす。twitterによる広報活動を行う。</p>	<p>①-1 対面での会議を開催できたか。交流事業を実現できたか。 ①-2 ホームページの更新回数が、令和4年度に比べて増加したか。 ①-2 twitterによる情報発信が安定的に実施されているか。</p>					
5	学校管理 学校運営	<p>①安全・安心な学習環境の維持に努め、点検・改善に努める。 ②信頼・信用ある学校経営に努め、事故不祥事根絶に向け、強い決意をもって臨む。 ③教員のワークライフバランスを推進するために、教員の働き方改革を推進する。</p>	<p>①-1 生徒の防災意識を高める教育機会をより充実させる。 ①-2 校内美化に努め、資源の有効活用等、環境意識を高める取り組みを行う。 ②-1 日頃から、職員間の情報共有を図るとともに事故不祥事防止会議等を定期的に開催し、業務の点検を行う。 ②-2 成績処理や調査書発行などの業務を確立し、新しい成績処理システムでの運用を円滑に行う。 ③長期休業期間中の学校閉庁日の設定。夏季休暇の消化、年次休暇の取得推進を図る。</p>	<p>①-1 実践的な防災訓練を行う。PTAと連携して登下校指導や1年生を対象としたスケアード・ストレイトを実施する。 ①-2 日頃の清掃活動に加えて、環境問題をテーマに様々な課題について生徒に考えさせ、生徒環境整備委員等の活動を活発化させる。 ②-1 グループ会議、学年会、教科会等の設定された会議だけでなく、日常的に連絡や相談を行う風通しのよい職場づくりを行う。 ②-2 事故防止研修会を毎月実施する。啓発資料のチェックリストを活用して職員の意識を高める。会計担当者の研修会を行う。 ②-2 成績処理支援システムの運用を徹底する。生徒情報を日々電子的に管理し、出席簿等で管理する状況から移行する。 ②-2 学校全体で正確な点検に努め、組織的な体制で臨む。 ③学校閉庁日の完全実施をめざす。夏季休暇の消化、年次休暇の取得推進を図る。</p>	<p>①-1 実践的な防災訓練が実施できたか。スケアード・ストレイトの実施により、生徒の安全意識が高まったか。 ①-2 校内の美化が保たれ、生徒を中心とした古紙回収・再利用等の活動に取り組めたか。 ②-1 職員間の情報共有を適切に行うことができたか。事故防止に対する当事者意識の向上とヒヤリハットを含めた事故防止はゼロにできたか。適切な会計処理ができたか。 ②-2 成績支援システムの出欠管理を通じて、生徒の出欠状況等の情報が日々電子的に管理されたか。 ②-2 教科・グループ・学年が協働した正確な対応ができたか。 ③学校閉庁日の完全実施、夏季休暇の平均取得日数が4日以上となったか。</p>					